

## 議会運営委員会 行政視察報告書

- 1 実施日 令和8年1月20日(火)~21日(水)
- 2 視察地 神奈川県横須賀市(20日)、静岡県島田市(21日)
- 3 視察項目 ○横須賀市【議会BCPについて】  
【横須賀市議会実行計画について】  
○島田市【島田市版 主権者教育について】
- 4 出席者 議会運営委員会(6名)  
【委員長】南谷 佳寛  
【副委員長】野口 佳宏  
【委員】河崎 周平、安藤 誠、後藤 徹、豊島 保夫

### 5 視察結果報告(神奈川県 横須賀市)

#### (1) 視察地の概要

- ・横須賀市 人口 約36万6千人 面積 100.80 km<sup>2</sup>
- ・視察対応状況  
1月20日 午後1時30分~(約1.5時間)  
横須賀市役所 担当:議会事務局

#### (2) 視察の内容(議会BCPについて)

##### ① 視察概要

災害発生時における議会及び議員の行動指針を定めた「議会BCP(業務継続計画)」について、策定の経緯、組織体制、情報共有の方法、並びに防災訓練の実施状況等について説明を受けた。

##### ② BCP策定の経緯

平成28年の熊本地震を契機として、災害時における議会の役割や行動を明確化する必要性が高まり、議会内に「災害時における議会のあり方検討会」を設置した。

同検討会において全9回の検討が行われ、議会基本条例の改正や議会災害対策会議の設置など、議会BCPの整備が進められた。

### ③ 災害時の議会の体制

災害発生時には、市の災害対策本部とは別に、議会独自の組織として「市議会災害対策会議」を設置する。

#### 【構成】

議長、副議長、議会運営委員長、各会派代表

#### 【主な役割】

- ・議員の安否確認及び地域の被害情報の収集
- ・市災害対策本部との情報共有
- ・議会活動の継続に関する調整

### ④ 情報共有の仕組み

災害時の情報の錯綜を防ぐため、次の原則を徹底している。

- ・各議員は市災害対策本部へ直接問い合わせを行わない
- ・市災害対策本部は各議員へ直接情報提供を行わない

すべての情報は「議会災害対策会議」を經由して集約・整理する仕組みとしている。

議員は地域の被害状況等を議会災害対策会議へ報告し、同会議を通じて市災害対策本部へ情報提供を行う。

### ⑤ 防災訓練の実施

平成29年度以降、毎年1回、防災訓練を実施している。

#### 【主な訓練内容】

- ・議会開催中の地震発生を想定した避難訓練
- ・市議会災害対策会議の開催訓練
- ・議員による地域被害情報の報告訓練
- ・安否確認訓練

令和5年度からは4年間の実施計画を策定し、計画的に訓練が実施されている。

## ⑥ 所 感

災害時には情報が錯綜しやすいことから、議会として情報の収集・整理の仕組みを明確にし、議会災害対策会議を中心に情報を一本化している点が特徴的であった。

また、毎年の訓練を通じて議員の役割や行動を共有し、実効性の向上を図っている点は参考になる取組である。

本市においても、災害時における議会の役割や情報共有のあり方について、議会BCPのさらなる充実を図る必要があると感じた。

## ⑦ 羽島市がすぐ取り組むべき事業とその課題

災害発生時に議会として迅速に対応するためには、議会内における意思決定や情報集約の体制をあらかじめ整備しておくことが重要である。

そのため、本市においても「市議会災害対策本部会議（仮称）」の設置など、議会としての災害対応体制の整備を検討する必要がある。

また、災害時における議員の役割や行動範囲、行政との情報共有の方法について事前に整理し、議会内で共通認識を図ることが課題である。

## ⑧ 羽島市が将来的に取り組むべき事業、現状の問題点と取り組む際の課題

現在、本市議会ではLINE WORKSを活用した議員の安否確認を行っているが、今後は安否確認にとどまらず、災害を想定した対策会議の開催など、より実践的な取組へと発展させていくことが必要である。

特に、議員からの被害情報の収集や情報共有の方法については、実際の運用を想定した訓練を通じて検証していくことが重要である。

そのため、議会としての訓練計画の策定や行政との連携のあり方について整理を進め、継続的に取り組んでいく必要がある。

### (3) 視察の内容（横須賀市議会実行計画「未来への羅針盤 2027」について）

#### ① 視察概要

横須賀市議会では、議会の政策形成機能の強化と議会改革の推進を目的として、議員任期4年間の取組を示した「横須賀市議会実行計画～未来への羅針盤 2027～」を策定している。

この計画は、政策検討会議を中心とした政策形成サイクルに基づき、議会が取り組む政策立案や議会改革を計画的に進めるとともに、その進捗状況を市民に分かりやすく示すことを目的としている。

計画期間は令和5年5月から令和9年4月までの4年間である。

#### ② 実行計画の特徴

本計画では、議員任期4年間の中で取り組む政策課題と議会改革の内容を整理し、議会としての取組を計画的に進める仕組みが整えられている。

また、政策課題の選定から政策立案、検証、改善までを政策形成サイクルとして整理し、議会として継続的に政策提案を行う体制を構築している。

#### ③ 政策形成の仕組み

横須賀市議会では、政策検討会議を中心にPDCAサイクルによる政策形成を行っている。

Plan（計画）

政策課題を抽出し、議員任期4年間の実行計画を策定する。

Do（実行）

課題別検討会議において、専門家や市民団体などから意見を聴取しながら政策提案や条例案を検討する。

Check（検証）

政策立案後は常任委員会の所管事務調査等により、条例や政策の効果を検証する。

Action（改善）

検証結果を踏まえ、条例改正や政策提言などの改善につなげる。

#### ④ 実行計画の内容

今期の政策課題として、例えば

- ・スポーツの振興を通じたまちづくりの推進
- ・市民参加や広報広聴の強化
- ・議会ICT化の推進

などが位置付けられており、条例制定や政策提言を目標に検討が進められている。

#### ⑤ 市民意見の反映

政策立案に当たっては、専門家や関係団体からの意見聴取に加え、広報広聴会等を通じて市民の意見を聴取し、政策形成に反映させている。

これにより、議会として市民の声を踏まえた政策提案を行う仕組みが構築されている。

#### ⑥ 所感

議員任期4年間を見据えた実行計画を策定し、政策立案と議会改革を計画的に進めている点が特徴的であった。

また、政策形成をPDCAサイクルで整理し、政策立案後も常任委員会で検証を行う仕組みを整えている点は、議会の政策形成機能を高める取組として参考になると感じた。

#### ⑦ 羽島市がすぐ取り組むべき事業とその課題

議会として政策提案機能を高めるためには、議会として取り組む政策課題を整理し、計画的に検討を進める仕組みを整備することが重要である。

そのため、本市においても議員任期を見据えた議会としての取組方針を整理し、政策課題を共有する仕組みづくりを検討する必要がある。

一方で、政策課題の選定方法や議会内での役割分担、行政との連携のあり方については、議会内で十分な整理と合意形成を図ることが課題となる。

#### ⑧ 羽島市が将来的に取り組むべき事業、現状の問題点と取り組む際の課題

政策提案を継続的に行うためには、政策課題の抽出から政策立案、検証、改善までを体系的に整理した仕組みづくりが必要である。

また、市民意見の聴取や専門家の意見の活用など、政策形成過程における市民参

加の仕組みを検討していくことも重要である。

そのためには、議会としての政策形成プロセスを明確化し、議会活動の見える化を図る取組を進めることが求められる。

⑨ 横須賀市での視察の様子



## 5 視察結果報告(静岡県 島田市)

### (1) 視察地の概要

- ・島田市 人口 約9万3千人 面積 315.70km<sup>2</sup>
- ・視察対応状況  
1月21日 午前10時～(約1.5時間)  
島田市役所 担当：議会事務局

### (2) 視察の内容(島田市議会版 主権者教育について)

#### ① 視察概要

島田市議会では、広報広聴特別委員会を中心に主権者教育の取組を行っており、議会や議員の役割について市民の理解を深めることを目的としている。

特に、将来の有権者となる小学生・中学生・高校生を対象に、議会を身近に感じてもらふ取組を段階的に実施している点が特徴である。

#### ② 小学生を対象とした取組

##### 夏休み親子議場探検ツアー

小学生を対象に、議会や議員の役割を理解してもらふことを目的として「夏休み親子議場探検ツアー」を実施している。

##### 主な内容

- ・議会の役割や議員の仕事の説明
- ・議会施設の見学
- ・クイズ形式による議会学習
- ・議員への質問時間
- ・模擬選挙の実施

また、絵本の読み聞かせなど小学生でも理解しやすい工夫がされている。

なお、羽島市議会でも小学生の議場見学は既に実施されているが、島田市ではクイズや模擬選挙など体験型の要素を取り入れ、議会をより身近に感じてもらふ工夫が行われている。

#### ③ 中学生を対象とした取組

##### 中学生の職場体験の受入

市内中学校の職場体験として議会の業務体験を受け入れている。

主な内容

- ・ 議会施設の見学
- ・ 議会の仕組みの説明
- ・ 議会広報編集作業の見学
- ・ 常任委員会の傍聴
- ・ 議員活動の説明

また、議場探検ツアーの運営補助なども行っている。

#### ④ 高校生を対象とした取組

高校生との意見交換会

市内すべての高校を対象に、議会との意見交換会を実施している。

主なテーマ

- ・ 将来も島田市に住み続けたいと思うか
- ・ 議会に望むこと
- ・ 地域の活性化について
- ・ 駅前のまちづくりなど

また、高校生の意見を参考に、議会だよりのフルカラー化など広報の改善にも取り組んでいる。

#### ⑤ 取組の効果

これらの取組により、議会や議員の活動について理解を深めてもらうとともに、議会を身近に感じてもらう効果が期待されている。

特に、小学生向けの議場探検ツアーでは参加者や保護者から高い評価を得ており、議会に対する関心を高める取組として成果が見られている。

#### ⑥ 今後の方向性

島田市議会では、今後も広報広聴特別委員会を中心に議会活動を広く発信するとともに、市民の声を聴く機会を設けることで、主権者教育につながる取組を継続していくとしている。

### ⑦ 羽島市がすぐ取り組むべき事業とその課題

羽島市議会においても小学生の議場見学は既に実施されているが、島田市のようにクイズ形式の学習や模擬選挙など体験型の内容を取り入れることで、より議会への理解や関心を高める取組とすることが考えられる。

また、議員との質疑応答の機会を設けるなど、議会をより身近に感じてもらう工夫についても検討する余地がある。

### ⑧ 羽島市が将来的に取り組むべき事業、現状の問題点と取り組む際の課題

将来的には、中学生や高校生を対象とした議会との意見交換の機会を設けることも有効である。

若い世代の視点を議会活動やまちづくりに反映させることは、地域の将来を考えるうえでも重要である。

一方で、学校との連携や授業時間との調整などの課題も想定されるため、教育委員会や学校との協議を行いながら検討していく必要がある。

### ⑨ 島田市での視察の様子

